

実践報告

外国にルーツを持つ子どもへの書写教育の実践

柳川瀬真衣(関西学院大学)

1 はじめに

外国にルーツを持つ子どもが日本語を「書く」ことに関して、正確な字を子ども本人は書いているつもりだが、学校教諭から間違っている字を書いていると思われるという問題がある。両者の間に認識のずれが生じている原因として、字形が間違っていること、止め、はねなどが正確に書けていないなどがある。また、Nazarova(2010)は、「日本人から見たらミスと思われることの主要な原因として考えられることは、教えている側における文字に関する説明不足や不注意と、習っている側の杜撰さであろう。」と指摘している。

このような現状から、外国にルーツを持つ子どもに対し、字形を指導することは、重要なことであると考えられる。以上のような背景から、筆者が現在、ボランティアとして参加している子ども向け地域日本語教室で、書写教育実践を行った。

2 書写教育実践の目標と概要

本実践の目標は、外国にルーツを持つ子どもが、正しく美しいひらがな、カタカナ、漢字を書けるようになることである。

本実践では、書写指導の講師を筆者が、書写指導の補助を地域日本語教室の支援者8人が行い、参加者は幼稚園児から中学校1年生までの子ども8名と保護者2名で行った。実践の内容は、硬筆練習と筆者による書道のデモンストレーションである。

3 硬筆練習の実践

硬筆練習では、筆者が教室内を巡回し、字形の指導を行う。また、子ども1人につき支援者1人がつき、マンツーマン体制で硬筆の指導が行われた。子どもは、隣にいる支援者や講師からアドバイスをもらいながら、硬筆の練習を行う。

硬筆練習では2つの取り組みを行った。1つ目は、自分の名前を書く活動である。2つ目は、「夏休みにしたいこと」を書く活動である。

まず、自分の名前を書く活動について記述する。筆者は、各画の長さや向き、角度などの字形の指導を行った。例として、ひらがなの「ろ」の斜め画を短く書いているため、数字の「3」のように見える「ろ」を書いていた子どもに対し、筆者が斜め画を長く書くように指導したことがあげられる。また、支援者は、正しい書き順を教える、どこから書き始めるかを矢印で示すなどの指導を行った。

筆者の指導や支援者の指導を受け、自分の名前をきれいに書けるようになった子どもの様子を観察した結果、正確な書き順で字を書くこと、各画の長さや向きなど字形に気を付け

るように指導することは、外国にルーツを持つ子どもに向けた書写指導として有効な指導方法であると分かった。

「夏休みにしたい」ことを書く活動では、「自分の思ったことを書くことができる」という視点を重視して取り組みを行った。この視点は、子どもたちの書く能力について、Can-doの観点に立った、実際に使える能力の育成を重要視したものである。筆者は、巡回しながら、「漢字を大きくひらがなは小さく書く」といった手書きで文を書く際の漢字とひらがなのバランスについて指導した。

硬筆練習の実践を通して、いつもよりもきれいな字で日本語を書けることに嬉しさを感じている子どもの様子、自分の書きたいことを日本語でたくさん書けることに喜びを見出している子どもが多くいるということに気づいた。

4 デモストレーションの実践

筆者が大筆を使用し、中国の漢詩「春暁」を行書で書くデモストレーションを行った。デモストレーションは、子どもも大変、関心を持っていた。デモストレーションで、有名な中国の漢詩を題材にしたこともあり、中学生が「私この漢詩、知っている。」と言い、漢詩をまだ習っていない小学生の子どもに教える、中国にルーツのある子が「この詩、僕、中国語で読める」と言うなど、子どもたちの中でも盛り上がった取り組みとなった。

5 考察

本稿では、外国にルーツを持つ子どもに対する書写教育の実践を記述した。実践を通し、正確な書き順で字を書くこと、各画の長さや向き、角度、止め、はね、払いといった字形に気を付けるように指導するといった日本人児童生徒と同じように書写指導を行うことは、幼少期から日本で生活している外国にルーツを持つ子どもに向けた書写指導として大変有効な指導方法であることが見てとれた。

また、自分の書きたいことを書けるようになったという日本語教育としての側面、自分は中国語ができるなどの自分のルーツと向き合う、デモストレーションで筆者が書いた詩と学校の勉強と関連付けるなど、書写教育以外の側面が多くみられる実践となった。これらの側面は、「私はこれができる」というポジティブなものが多く、外国にルーツを持つ子どもにとって自信となる気付きを得られたイベントでもあったのではないかと考える。

【引用文献】

Nazarova, Ekaterina (2010) 「外国人を対象とする日本文字学習の枠内で書道教育の導入、指導方法とその特徴について」

https://www.kanken.or.jp/project/data/investigation_incentive_award_2010_ekaterina.pdf (2021年8月1日最終閲覧)